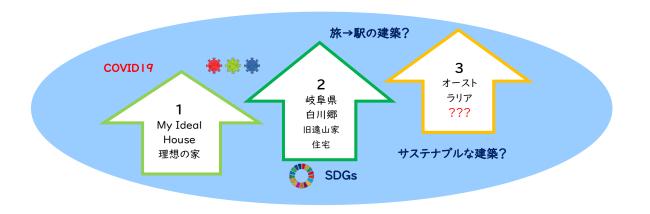
## 旅で出会いたい建築 2022 夏

# ~オーストラリアのバララット駅で出会った The Goods Shed の今と昔~ 3G-28 佐伯 育子

#### 1. 研究のきっかけ

中学校で最後の自由研究となる今年の研究は、新たな視点から建築にアプローチしてみたいと考えていた時、この 夏休みにオーストラリアのバララットという町にある学校に短期留学することになりました。

|年生の時はコロナ禍における「理想の家」について考えを深め、2年生は日本の伝統的な家屋の|つである白川郷の建築について研究を進めてきたので、3年生は海外の建築に目を向けることに決めました。旅先のオーストラリアでいったいどんな建築に出会えるのかはわかりませんでしたが、素敵な出会いを信じて出発することにしました。



#### 2. いざ、オーストラリアへ!



#### 3. 旅で出会いたい建築 THE GOODS SHED に出会うまで

昨年の自由研究を SDGsの取り組みから考えたこともあり、今回の自由研究の計画段階で「サステナブルな建築」をテーマの一つに挙げていました。バララットに着いてすぐに感じたことは、バララットの町全体が 1850 年代のゴールドラッシュの時代を思わせるような町並みで「生きている博物館」みたいだということ。

たとえば、外観は古いレンガ作りですが、内部が現代風に改装されている建物が多く見られました。単に古いだけではなく、今と昔が自然に溶け込んでいる町並みからその建築の一つひとつをバララットの人々は日々の生活の中で大切にしているのがよくわかりました。私が通っていた学校も 1875 年に設立された学校で、校門や校舎の建築に伝統を感じました。学校では、出発前に自己紹介のために用意していたプレゼンテーションをする時間がありました。建築への興味、昨年の研究の白川郷の建築について、オーストラリアの人たちに聞いてもらえたことは私にとって、とても意味のあることでした。昨年の夏に出会った「結」の心を、今年の夏にオーストラリアの人々に伝えることができたからです。





メインストリートの Sturt street



伝統的な学校建築





クラスでプレゼンテーション



Wildlife Park にて カンガルーと

## 4. 旅で出会いたい建築:THE GOODS SHED との出会い

オーストラリアでの滞在が終わりに近づき、帰国前の数日間はバララット駅近くのホテルに滞在しました。夜になって、ホテルの部屋のベランダから見えたライトアップされている THE GOODS SHED の建物とその文字。何だかとても気になってきました。「SHED の意味は何?」と思って調べると「小屋」つまり「貨物小屋」。ホテルのその横には 1862 年に建てられたバララット駅があります。旅の玄関口である駅には何かのメッセージが込められていることが多いように感じており、バララット駅にはちょっとした思い入れがありました。2週間前、初めてバララットに降り立ったのがこの駅だったということもあったのかもしれません。









ホテルの部屋のベランダからの夜景

翌朝、帰国の日の朝でしたが、THE GOODS SHED の建物近くまで近づき、見学してきました。バララットを出発するまであまり時間がなかったので、写真をたくさん撮って記録に残すことにしました。この建物にまわりにあるパネルの説明やイラストを見ていると、ゴールドラッシュ時代に重要な役目を果たしていた貨物小屋だということがわかってきました。外観(外壁)は当時のまま残されていて、建物の中にも当時の看板(禁煙サイン)がそのまま飾られ、当時使用された「はかり」なども展示されていました。天井が高く、当時、蒸気機関車で運ばれてきた荷物を幌馬車で運び出すために使われていた扉につけられていた番号もそのまま残されていて、この建物が実際に貨物小屋として使われていたことがよくわかりました。両サイドに合計 15カ所ある扉からは光が差し込み、当時の貨物小屋の外壁は残しつつも、現在は会議室や劇場として生まれ変わり、これからレストランも入る予定のようでした。外装は昔のままなのに、内装のデザインが洗練されていて、とてもおしゃれに活用されていました。「当時の人はどんな夢を抱いてこの場所にいたのだろう?」と、いまから約160年前の当時の人々も今ここにいる私と同じ場所に立ち、同じようにこの石造りの建物を見ていたと考えると、不思議な気分になりました。そして、この THE GOODS SHED に心惹かれ、バララットと関連深いゴールドラッシュの歴史についてもっと知りたくなりました。



















#### 5. THE GOODS SHED の建築と歴史

帰国後、早速、インターネットなどで THE GOODS SHED について調べてみましたが、すべて英語のサイトばかりでした。 図書館ではバララットのゴールドラッシュについての資料はありましたが、THE GOODS SHED については、ほとんど見つけることができませんでした。さらに今回は昨年のように現地の方々にもお話を伺うチャンスもなく、このまま研究を進めることができるのだろうかと少し不安になりましたが、この THE GOODS SHED こそ、今回の「旅で出会いたい建築」。そういうわけで、当時の人々の日常に思いをはせて、「THE GOODS SHED のゴールドラッシュ時代の模型」を作ることに決めました。

模型を作る前に、オーストラリアやバララットについて改めて調べてみることにしました。

#### ■ オーストラリアのルーツ

無人のオーストラリア大陸に移り住んだのはアボリジナルの人々であり、今から4万年以上前と言われている。 17世紀の後半、イギリス人がオーストラリア大陸に上陸し、調査開始。1770年、HMBエンデバー号のジェームズ・クック船長は、英国王室の名の下オーストラリア大陸東側の一部を占領。1788年、最初の英国船団が現在のシドニー湾に到着し、入植。イギリスの流刑地を設立。これがイギリスの植民地としてのオーストラリアの始まりである。植民地と外部の接点に関しては、港が重要な役割を果たしていた。この時期に使われていた港はシドニー、ホバートのみ で、その後、新しい港が作られ、メルボルンは 1835 年にできたと言われている。1880年代に入り、各植民地を統合し、連邦国家を創設しようとする動きが始まり、1901年1月1日にはオーストラリア連邦が結成された。

#### ■ バララット(Ballarat)について

オーストラリアビクトリア州にある3番目に大きい都市。人口は11万6201人(2021年)。

ビクトリア州の州都であるメルボルンからは西に112km に位置する。名称は先住民アボリジナルの言葉「休憩所」 にちなんでいる。1851 年の金鉱発見により金鉱都市として急成長。(オーストラリアビクトリア州のゴールドラッシュ) 1854 年の「ユリーカ砦の反乱(金鉱掘人の反乱)」で知られ、記念碑がある。

市内はゴールドラッシュの時代の建物が保存・復元されている。

#### ■ オーストラリアビクトリア州のゴールドラッシュとは?

1851年にサウスウェールズで初めて金が見つかり、一刻千金の夢を抱いて多くの人が金探しに殺到した。

1851年末までにビクトリアのバララットとベンディゴでも発見され、オーストラリア史上で最大規模のゴールドラッシュが始まる。ビクトリア州におけるゴールドラッシュは当時の世界の金生産量の3分の1を占めていたといわれている。ビクトリア植民地の人口は2年間で約7万7千人から28万4千人まで急増。オーストラリアの人口も1851年の43万人が1871年には170万にふくれ上がった。

金鉱の町への人々の行き交いが急増し、その結果、1850年代から1860年代にかけて、新しい道路、鉄道、そして電信線で海岸沿いの都市と結ばれるようになった。(電報の開設)このゴールドラッシュにより、世界各国から大量の人々が入国し、その結果、新しいアイデア、技術、文化が持ち込まれ、植民地の経済も発展していったともいわれる。

#### ■ 南十字星旗と「ユリーカ砦の反乱(金鉱掘人の反乱)」

一方、ゴールドラッシュに伴い、内陸部のバララットでは急激な入植者の増大による食料の高騰、住宅の不足、交通手段など深刻な問題が生じていた。そのような中でバララット近くのユリーカの丘で金鉱採掘者と政府の間の武力衝突が起こった。(1854年12月3日)

当時、金鉱の運営に政府は「許可証」を発行するというシステムをとって おり、許可料を支払うことになっていた。植民地政府にとってこの許可料



青い十字と南十字星が描かれた共和国旗

は歳入源であり、値上げも行っていた。さらに、許可証の所持を徹底し、取り締まる警察官に絶大な権限が与えられた。このことにより、採掘者の不満が蓄積されていった。そのような時、スコットランド人の採掘者が殺される事件が起こり、容疑者は無罪放免された。この事件をきっかけに採掘者たちの不満は爆発し、1854年11月には「バララット改革同盟」が結成された。採掘許可料の廃止や議会への代表権、成年男子の普通選挙権などの要求を掲げたのである。採掘者たちはユリーカの丘に集い、青い十字と南十字星が描かれた共和国旗を掲げ、その前で自らの権利と自由を守ることを誓った。採掘者たちは戦いに敗れたが、一連の抗議活動の後、採掘現場での採掘許可料が事実上廃止、本国イギリスに先立ち、成人男子の普通選挙権が付与された。

#### ■ THE GOODS SHED とは?

ゴールドラッシュ時代のバララット駅複合施設はビクトリア州最大の国内・海外輸出用貨物の重要な輸送拠点であり、 THE GOODS SHED はバララット駅複合施設の一つとしての貨物小屋であった。かつてバララット駅は一日に150トンほどの貨物を取り扱い、1863年にTHE GOODS SHED が開設されるとその収入が5倍に増加したともいわれる。 外壁は「ブルーストーン」と呼ばれるメルボルン特産の石材が使われている。この小屋は地元の建設会社 Irving and Glover によって建設された。内部には木製の柱で支えられた巨大なプラットホームがあり、特に小屋の切妻屋根の下 にある美しい円形の換気口が印象的。バララットの THE GOODS SHED はビクトリア州で最も大きく、最も完全な形で保存されている。現在、THE GOODS SHED はその豊かな歴史的建築物(ヘリテージ)を保存・修復されたことで生まれ変わり、新しさと伝統を併存させている。

1851年: バララットでのゴールドラッシュ 1863年: THE GOODS SHED 開設

1995年: 歴史的建築物(ヘリテージ)として登録



当時の THE GOODS SHED (右側)



コンバージョンに向けての THE GOODS SHED



現在の THE GOODS SHED と近くの様子

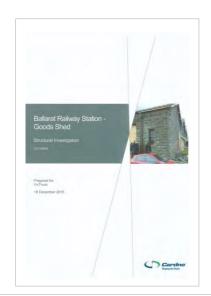
#### 5. THE GOODS SHED の模型作り

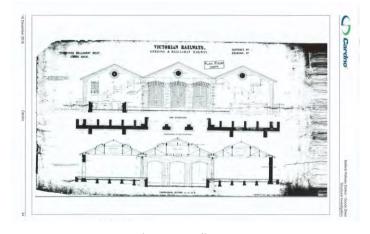
模型作りで大変だったこと・こだわりは数多くありますが、そのうちのいくつかを紹介します。

## 大変だったこと・こだわり①

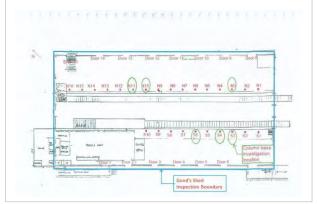
THE GOODS SHED について日本語で書かれた資料を全く見つけることができませんでしたが、この THE GOODS SHED の構造調査を手がけたオーストラリアの Cardno という会社の報告書(2015年12月作成約60ページ)をインターネットで見つけ、そこには当時の図面やコンバージョン前の THE GOODS SHED の建物の構造や当時の図面も載っていました。ただし、見つけた立面図は当時のもののようで印刷状態が悪く、実際の寸法や縮尺を読み取れず、当然ながら、資料がすべて英語で書かれていて専門的な内容なので理解するのが難しく、とても苦労したりしました。

英語に関して言えば「英語を読む」のではなく「英語で読む」というのは難しい けれど、これから挑戦していきたいと感じました。





この立面図(A4 サイズ)を 300 分の I として寸法を出すことにしました。



## 大変だったこと・こだわり②

THE GOODS SHED 模型を 300分の I で作りはじめたところ、その後の作業が思った以上にとても細かくなってしまいました。

特に内部には指が入りにくくて、ピンセットで作業するなど、とても苦労しました。また、外壁は「ブルーストーン」のゴツゴツとした雰囲気を少しでも再現するために、卵の殻を乾燥させ、着彩したものを細かく砕いたものを特に曲線を描くアーチに使うことにしました。当時の人がブルーストーンを積み上げていたことを思いながら、ピンセットと爪楊枝を使って一つひとつボンドでくっつけていきました。











## 大変だったこと・こだわり③

今回は THE GOODS SHED の模型作りは、現在の THE GOODS SHED の模型ではなく、現在 THE GOODS SHED の建物を見て、バララットのゴールドラッシュ時代に立てられた THE GOODS SHED の建築と世界中から様々な夢や希望を持って集まった人々の情景を再現しようとこだわりました。ただし、鉄道模型のパーツを扱うお店にも行ったところ、ほとんどものが縮尺 I 50分の I を標準としているため、人や馬はネットショップで300分の I のものや苔テラリウム用のものを探しました。







蒸気機関車や幌馬車はネットショップでもちょうどいいサイズのものがなく、手作りするしかないと思いました。そこで、実物の蒸気機関車を見るために梅小路の鉄道博物館に行くことにしました。帰りに立ち寄った博物館内のショップで機関車のストラップや機関車の形の箸置きを見つけ、それらがちょうどいいサイズだったので、解体するなどして模型に使うことにしました。幌馬車は手作りの仕方を紹介する動画サイトを見つけて、参考にしました。作業がとても細かくて時間がかかりましたが、何とか仕上げることができました。







## 大変だったこと・こだわり④

ゴールドラッシュ時代を想像する上で、インターネットで当時の様子を検索して、イメージをふくらませました。ホストファミリーと一緒に訪れた Sovereign Hill(ソブリンヒル)というゴールドラッシュ時代をテーマにしたテーマパークに行った時のことも参考になりました。THE GOODS SHED に運び込まれた荷物や建物そのものや周辺の着彩にもこだわりました。鉄道模型のお店で買った「リアルサンド」をスチレンボートに貼り付けるのに苦労しましたが、砂まみれになったところが、当時の情景に合っていると思います。模型の側面に設置したアクリル板は昔と今の対比をしたかったので置いてみました。





#### 6. まとめ

「サステナブルな建築」をテーマとして始めた研究でしたが、結果的に昨年度の「旅で出会いたい建築」に繋げて進めることができました。オーストラリアで出会った先生から「建築を知ることは歴史を知ること」だという話を聞き、オーストラリアの歴史、バララットでの歴史的な出来事を知ることで、THE GOODS SHED という建築について理解が深まりました。この研究を進めていく上で何度も出会った「ヘリテージ(heritage)」という言葉は今後の建築への興味に繋がっていくような気がしています。ヘリテージ(heritage)は、日本語では一般に「遺産」を意味しますが、ヘリテージはオーストラリアの歴史や社会を特徴づけるものであり、後世に伝えていくべきものだと定義されていることを知りました。ゴールドラッシュ時代から大切に受け継がれているバララットの「今」の建築物に当時の「昔」に思いをはせたことで、当時の人々の夢やエネルギーを感じ取れ、現代において様々な課題に直面する時代に生きる私たちが勇気づけられるような気がしました。また、「駅」の建物に引きつけられるのは、駅は旅の出発点であるということと同時に未知なる出会いが待っている出発点だと思うからです。今回の研究で出会うことのできた THE GOODS SHED は「サステナブルな建築」であると実感し、「今と昔を繋げる」という新たな視点を持つことができたのが、この研究においての大きな学びだと思っています。

### 7. 最後に

2020 年初めから続くコロナ禍で当たり前だったことが当たり前でなくなった今、建築においても、新しさや便利さばかりを追い求めるのでなく、古い歴史や伝統からヒントを得て活用できることも多くなってきているのではないかと思っています。

オーストラリアの歴史において忘れてはならないのが、18世紀頃にヨーロッパからの 入植が始まるずっと昔、約4万~5万年前からオーストラリアに住んでいた先住民族 アボリジナルの存在です。今回の滞在中、バララットやメルボルンの町でアボリジナル の民族旗を見かけました。先住民族という民族的・社会的マイノリティという立場にある 人々との共存や先住民族の権利やアイデンティティーを守ることは *SDGs* の重要課題の 一つであることを知り、これからもっと理解を深めていきたいと思っています。



メルボルンのビクトリア図書館で 見たアボリジナルの民族旗

#### 8. 参考文献

石出法太・石出みどり(2009) 『これならわかるオーストラリア・ニュージーランドの歴史 Q&A』 大月書店

田中豊裕(2011)『豪州読本―オーストラリアをまるごと読む』 大学教育出版

藤川隆男(2004)『オーストラリアの歴史―多文化社会の歴史の可能性を探る』有斐閣

地球の歩き方編集室(2017)『地球の歩き方2018~2019 年度版』 ダイヤモンド社

一般財団法人自治体国際化協会(2012)『オーストラリアにおける歴史的建築物の保存と活用』

http://www.clair.or.jp/j/forum/c\_report/pdf/239-1.pdf

日豪プレス 2019 年 9 月号 No39 (2019) 『ユーリカの反乱 Eurica Rebellion』

http://melhyak.web.fc2.com/human/marvelous/no39/Eurica.html

The Asahi Shimbun(2021)『SDGs ACTION!先住民族の権利と知恵を生かす データで見る SDGs【5】』

https://www.asahi.com/sdgs/article/14380443

オーストラリア政府観光局(2022)『好奇心旺盛な方に向けた、オーストラリアの歴史』

https://www.australia.com/ja-jp/facts-and-planning/about-australia/history-of-australia.html

Cardno (2015) Ballarat Railway Station – Structural Investigation Prepared for Vic Track

 $\frac{\text{https://www.planning.vic.gov.au/\__data/assets/pdf\_file/0016/18241/Structural-assessment-of-goods-shed-18-December-2015.pdf}$ 

Ballarat Train Station Short Walk with Map (2017)

https://www.hulballarat.org.au/cb\_pages/files/20170927%20Ballarat%20Train%20Station%20Short%20Walk%20with%20Map%20.pdf

The Courier (2021) Ballarat station precinct upgrade: Goods Shed announces Atlantic Group to run hospitality outlets

 $\underline{\text{https://www.thecourier.com.au/story/7364019/so-what-sort-of-businesses-will-be-going-into-the-goods-shed/}$ 

The Goods Shed Ballarat (2022)

https://thegoodsshedballarat.com.au/